京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（3 年計画の 3 年目）

１．研究課題

ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて

New Socio-Environmental Theories for the Post-Pandemic World

２．研究代表者氏名

香西　豊子

KOZAI, Toyoko

３．研究期間

2021 年 4 月-2024 年 3 月(3 年目)

４．研究目的

COVID-19 は、世界中の国々の政治や経済のみならず、人々の社会観や自然観に根源的な動揺を与えた。人間社会の差別や経済状況に即して被害が甚大となる構造に加え、乱開発がもたらすウイルスと人間の頻繁な接触に警鐘が鳴らされている。だが、感染症の歴史は蓄積が膨大であるにもかかわらず、人文科学の研究者は新しい社会観や自然観や未来構想を発信できていない。本プロジェクトでは、感染症の歴史の文献、特に百年前のスペイン風邪の一次史料を、今回並びに次回の危機の際利用しやすいように整理、蓄積する。それと同時に、パンデミックに関するオンライン連続講演を発信する。これによって、さまざまな価値が動揺する時代に対応した、社会観や自然観の再構築にむけた人文学知を形成することを目的としている。

COVID-19 has caused fundamental upset not only in the politics and economy of countries around the world, but also in people's views of society and nature. In addition to the structure in which the damage is enormous in line with discrimination and economic conditions in human society, the alarm is B8being given to the frequent contact between viruses and humans caused by overdevelopment. However, despite the vast amount of history of infectious diseases, humanities researchers have not been able to fully disseminate new views of society, nature, and future plans. In this project, the history of infectious diseases, especially the primary sources of the Spanish flu 100 years ago, will be organized and accumulated for practical use in this and the next pandemic crisis. At the same time, he will send out a series of online lectures on pandemics. In doing so, this project has a try to form the humanistic knowledge for the reconstruction of the integrated social and natural views in response to the times when various values are shaken.

５．本年度の研究実施状況

2023 年度は、岩波書店から出版予定である『疫病と人文学――終わらせる力に抗い、傷を書きとめる』（仮）に向けて、ほぼすべての執筆予定者の原稿案を検討した。同時代的な研究の場合は、歴史的背景から論じるような調整をしたり、歴史研究は同時代的観点を導入するなど、全体のバランスを検討することができた。

６．本年度の研究実施内容

2023-04-24　論集に関わる話題提供 発表者 香西豊子 佛教大学

2023-05-22　汚穢、伝染、汚染――今日的アプローチの模索、および生活現場における若干の事例考察 発表者 酒井朋子

2023-06-05　原稿検討会 発表者 香西豊子 佛教大学　発表者 藤本大士 ハイデルベルク大学

2023-10-23　コロナ禍が見せた世界の成り立ちを忘れない――ケアを担う女として 発表者 直野章子

2023-11-20　石鹸と手洗いの社会史 発表者 岩島史 経済学研究科

2023-12-28　近世後期天草の疱瘡体験―流行病が村や個人にもたらしたもの 発表者 東昇 京都府立大学 「副反応」と「後遺症」／「死者」と向きあう 発表者 香西豊子 佛教大学

2024-01-22　現代日本人の政治・科学への「信頼」に関する歴史学からの試論―Covid-19 の「五類化」に伴う社交的言説の分析から 発表者 池田さなえ 京都府立大学 後遺症について 発表者 香西豊子 佛教大学

2024-02-05　日本資本主義のなかの「流行性感冒」 発表者 小堀聡　監視と計算――COVID-19 における科学技術 発表者 瀬戸口明久

2024-03-04　誰が彼らを殺すのか：怒りと認識の十九世紀統計史 発表者 岡澤康浩

2024-03-13　ウイルスの変容、ヒトの変容　～いたちごっこと相関～ 発表者 粂田昌宏 生命科学研究科 パンデミックと家族と島国：分断の世紀にアーティストでいること 発表者 新井卓 アーティスト

７．共同研究会に関連した公表実績

なし

８．研究班員

所内

藤原辰史、石井美保、直野章子、瀬戸口明久、小関隆、岡田暁生、小堀聡、KNAUDT, Till、酒井朋子

学内

粂田昌宏(生命科学研究科)
学外
香西豊子(佛教大学歴史学部)、東昇(京都府立大学文学部)、池田さなえ(京都府立大学文学部)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学世界仏教文化研究センター)、新井卓

９．共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
人文研所属	1	11	1	0	1	0	63	9	0	9	0
（内女性）		(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)	(0)	(0)
京大内（人文研を除く）	1	4	1	0	0	1	36	9	0	0	4
（内女性）		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(18)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	0	2	0	0	0	0	9	0	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	0	2	1	0	0	0	18	9	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(9)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他　※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	3	20	3	0	1	1	127	27	0	9	4
		(7)	(0)	(0)	(0)	(0)	(39)	(0)	(0)	(0)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	6		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	10	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	ユリイカ　2023 年 4 月	1	R5.4	牧野富太郎の山歩き――植物採集の王国	瀬戸口明久
2	Handbook of Environmental History in Japan	1	R5.4	The 20th Century around Tokyo Bay: Life, Production and Environment	小堀聡
3	啓迪	1	R5.5	「公衆」衛生の来歴	香西豊子
4	美術フォーラム 21（47）	1	R5.6	ダゲレオタイプ、そのいくつもの歴史 ：十九世紀ダゲレオタイプの多様性と現代におけるビン・ダンの試み	新井卓
5	医学史研究	1	R5.6	モラル実践としての公衆衛生――三宅秀『修身衛生講話』にみる転換期の近代「衛生」のかたち	香西豊子

6	信州から考える世界史:歩いて、見て、感じる歴史	1	R5.7	信州の産業と経済―世界を魅了し、日本を支えた信州産生糸	池田さなえ
7	女性白書 2023	1	R5.8	食料危機打開の方向と農業女性	岩島史
8	経済社会とジェンダー	1	R5.8	書評　大野恵理(2022)『「外国人嫁」の国際社会学　「定住」概念を問い直す』有心堂	岩島史
9	コモンの「自治」論	1	R5.8	食と農から始まる「自治」ー ー権藤成卿自治論の批判の先に	藤原辰史
10	近代京都と文化「伝統」の再構築	1	R5.8	京都・尊攘堂における「活きた勤王」―近代京都文化を作り、支えた人びと	池田さなえ
11	思想　1194 号	1	R5.10	巨大なものとしての科学――一九六〇年代科学論におけるポストヒューマニズム	瀬戸口明久
12	配信芸術論	1	R5.10	機械化時代の音楽・科学・人間――兼常清佐のピアノの実験	瀬戸口明久
13	季刊民族学	1	R5.10	笑いの向こうにみる紛争と分断の経験――北アイルランド・ベルファストの日常経験の多面性	酒井朋子
14	洛北通信　25 号	1	R5.11	最適化しない生き方	池田さなえ
15	年報　村落社会研究第 59 集　アクションリサーチという問いーフィールドとの向き合い方を考える	1	R5.11	農業経済学の研究動向	岩島史
16	京都府立大学学術報告人文　75 号	1	R5.12	明治期日本の大農場における経営・技術思想－品川弥二郎所有・北海道農牧場の人的関係分析から	池田さなえ

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	Handbook of Environmental History in Japan	藤原辰史	R5.4	Amsterdam University Press / Japan Documents	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

2025 年 3 月までに、『疫病と人文学――終わらせる力に抗い、傷を書きとめる』（岩波書店）を刊行する予定。